

手賀沼が海だったころ

2021年7月22日（祝・木） アミュゼ柏で開催

歴史講演会 「山城ガールむつみさんが語る 城めぐりの魅力」

1. 今年もコロナ感染防止 を考慮して講演会開催

さる2021年7月22日（日）10時～12時（祝・木）14時～16時、アミュゼ柏のクリスタルホールにおいて、歴史講演会「山城ガールむつみさんが語る城めぐりの魅力」を開催しました。講師は山城ガールむつみ氏です。

全国各地にある城跡の大部分は、戦国期につくられた天守閣や立派な石垣などない、土塁と空堀でできた土の城です。山城ガールむつみ氏は、滋賀県の小谷城跡を旅行中にみて、そこから城跡に関心をもったということですが、今回の講演では関東の中世城郭の遺

構だけではなく、西日本の城跡の畝状竪堀群などの遺構も含めて、具体的な城跡の紹介もあり、興味深いものでした。むつみ氏の実家の近くにも、三浦氏の城郭である怒田城跡があり、小さい時に遊んでいた場所が城跡であったことを後で知ったということですが、城跡を通じて身近な地域の歴史の再発見、さらには町おこしにもつながるかと思いません。

当会はアミュゼ柏での講演会は4回目ですが、クリスタルホールでは今回が初めてです。新型コロナウイルス感染がまだ収まらないなか、色々対策を行って開催に踏み切りましたが、お越し

頂いた80名ほどの皆様には感謝したいと思います。



<受付の様子>

受付のため、体温計、アルコールも持参しました



<講演会では座席も間隔をあけて着席>

2. 当日講演会の様子など

最近はお城ブームということで、各地で御城印というカードが制作されています。山城ガールむつみさんは地元神奈川県だけでなく、千葉県下の御城印の制作や関東各地の城郭の紹介などに関わっています。講演では、お城めぐりの楽しさ、お城の楽しさ、歴史を知る楽しさ、お城を通じた町おこし(多古町の例)などについて、分かりやすく語っていただきました。



<講演するむつみ氏>

講演会では、山城ガールむつみ氏の山城に興味をもつきっかけとなった滋賀県の小谷城跡訪問時の話から、むつみ氏の地元神奈川県横須賀市の身近な場所に三浦氏の城であった怒田城があったことや、神奈川県、千葉県の各地に残る城跡は史跡として歴史的価値を持つとともに、最近では町おこしに

もつながっています。

山城ガールむつみ氏は、千葉県多古町での中世城郭を活用した町おこし活動にも関わっていて、その話もありました。

会場であるアミュゼ柏プラザには、熱心な受講者が集まりました。

講演会には、柏市をはじめとした千葉県内だけでなく、東京都、神奈川県、埼玉県からの来場がありました。

特に横浜市、横須賀市からのご来場が目立ちました。



<司会の富澤美奈子さん(左)、当日会場の様子(右)>

3. 講演会の内容 (レジュメより)

【山城ガールむつみ】

歴史講師、歴史&山城ナビゲーター

三浦一族研究会役員、三浦一族城郭保存活用会会長、千葉城郭保存活用会副代表、

多古城郭保存活用会アドバイザー、一般社団法人BUSHIDO文化協会理事など。

歴史やお城をテーマにしたイベントや講座を多数手がけている。

カルチャースクールの講座、歴史ツアーなどのナビゲーターもつとめ、ツアーや講座の回数は、年間100回を超える。地域活性のために埋もれている歴史の掘り起こしなど、歴史コンサルとしても活動。御城印発行などもプロデュースしている。

SNSは「山城ガールむつみ」で検索！ HPは、<https://www.rekitoki.com/>

【出陣のススメ】

お城めぐりの何が楽しいの？

全国には何万もの城址があります。

「城」とは天守閣のような建物を指すわけではなく、城という漢字は「土で成る」「土を盛る」と書くように

政治・経済・文化を守る構造物のことを指します。

そびえ立つ白亜の天守閣や櫓や門がなくても、領地

を守るために人の手が加えられた痕跡「土のあと」が

残っていれば、そこは歴史口マンの詰まった城なのです。

おもに、南北朝時代から戦国時代に築かれた城は山の上、丘の上に築かれることが多く「山城」と呼ばれます。

ただの山に見えて、その山の中には先人たちの想いが詰まっているのです。

何万もある城は私たちの身近にたくさん残っています。気軽に楽しむことができるのが城めぐりの魅力です。

建物などが残らずとも、ほんの少しの痕跡や地形から自分なりの城の姿を想像して楽しむことができます。

まさにそれこそが城めぐりの醍醐味ではないでしょうか。

お城と歴史を使って何ができるのか？

歴史やお城がない地域はありません。歴史やお城は地域に眠る資源なのです。歴史とお城をフックにすると…

- 歴史で繋がる地域と広域連携ができる
- 地元に対する愛着を育てられる(アイデンティティや誇り)
- 住み続けたい街を作ることができる
- 観光資源として活用できる and more

【相馬氏を介して繋がる柏市と鎌倉】

伊勢神宮の荘園である「相馬御厨」が柏市周辺に広がっていたとされます。

千葉常胤の子、師常が相馬の地を領地として「相馬」

氏を名乗りました。

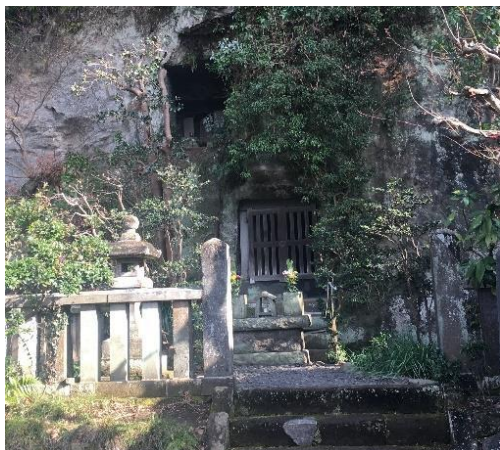
師常は、鎌倉の屋敷にて死んだとされ、鎌倉には師常の墓と伝わるやぐらがあります。近くには、師常の屋敷内にあったとも伝わる八坂神社も残っています。

鎌倉には千葉氏の屋敷地とも伝わる「千葉ヶ谷」があり、また千葉胤貞が創建したといわれる日蓮宗妙隆寺もあります。

さらに中世の湊「六浦湊」近くには千葉氏ゆかりの日蓮宗上行寺もあり、歴史を通して、いろいろな地域が繋がっていることがわかります。

歴史を知ると地元を好きになる！

色んな地域と歴史で繋がることができます！



<相馬師常の墓と伝わる「やぐら」>

画像：山城ガールむつみ氏

「やぐら」は、おもに13世紀後半から15世紀頃にかけて築かれた仏教施設のこと。



<「相馬天王」とも呼ばれる八坂神社>

画像：山城ガールむつみ氏

もとは相馬師常の屋敷内にあったとも伝わる。鎌倉の今小路に面して建つ。

【柏市域の城跡】

・松ヶ崎城跡

松ヶ崎城は手賀沼の最西端の台地上に築かれ、かつ

ては城内から手賀沼を臨むことができたと思われます。松ヶ崎城が築かれた台地は、大堀川と地金堀が分岐する

箇所にあたり、さらに手賀沼の北側には古東海道が通っていたとされ、まさに水陸の要衝地といえます。

土塁や堀で囲まれた方形の城館跡が良好に残りますが、文献などの記録はなく詳細は不明です。しかし、調査により、曲輪、土塁、空堀、虎口、土橋、物見台などが検出されていて、土器や陶器などの遺物からも15世紀後半から16世紀前半にかけての築城とみられています。

市内の増尾城、幸谷城同様に小金城主高城氏に関連する城郭という推察がされていますが、城内からは建物跡が見つかっておらず、臨時的な用途も指摘されています。柏市指定文化財(史跡)に平成16年7月に指定されました。



<松ヶ崎城跡の主郭東側>

画像：山城ガールむつみ氏

・増尾城跡

増尾城は増尾集落から北東に突き出した半島状の台地の上に築かれました。

南側崖下には手賀沼に流れ込む大津川の支流が流れ、城山のまわりは谷と険しい崖に囲まれ、天然の要害となっています。

築城時期や築城主は不明ですが、土塁や空堀からなる塁壁に複数の横矢が掛けられていることなどから戦国期の城とみられています。増尾城が小金領にあることから、16世紀に築かれた

小金城と関連する城と推測されており、東葛飾郡誌には小金城主高城氏の家臣平川若狭守が城主だったと書かれています。周辺には大津川に沿って、幸谷城、戸張城、佐津間城などの中世城館が築かれていて、これらの城とともに手賀沼へと続く水上交通の要衝だったと思われます。



<増尾城跡の郭>

画像：山城ガールむつみ氏

・幸谷城跡

幸谷城は「きつね山」と呼ばれる小丘に築かれ、城山の東側と南側には谷津がめぐっています。今も近くまで川が入り込んでいて、城が使われていた当ても手賀沼に流れる河川を利用して機能していたことが推測できます。

千葉一族相馬氏の居館ともいわれていましたが、近年は調査による出土物などにより、15世紀後半に築かれ16世紀まで使われていた可能性が指摘されています。



<幸谷城・空堀>

画像：山城ガールむつみ氏

食い違い虎口や複数に折れる土塁、堀から、増尾城と同じように小金城主高城氏に関連する城と想定でき、増尾城と連携して使われていたと思われます。

【山城ガール(ボーイ)度チェック】

ひとつでも当てはまったアナタは山城ガール(ボーイ)

- ・体力だけでなく知力も持てあましてる人
- ・山ガールだけでは満足できない人
- ・プラタモリを毎週楽しみにしてる人
- ・想像力の逞しい人、もしくは妄想癖のある人
- ・体を鍛えたいけどジムに入るのはちょっと…という人
- ・人間観察が好きで、人を見る目に自信のある人
- ・最近、「ちょっと歴史って面白そう」とふと思った人
- ・暇な人
- ・1人遊びが好きな人
- ・審美眼に自信のある人
- ・「個性的ね(変わり者ね)」というのが褒め言葉に聞こえる人

いつでも思い立ったら一人で楽しめます。全国に一生かかっても回りきれないほどの城址があります！一度ハマると一生退屈させません。知力、体力の向上間違いなし！！百利あって、一害なし！！そんな素敵な山城ガール(ボーイ)、始めてみませんか？

城郭研究ノート

横浜市の権現山城跡について



森 伸之

◆武蔵国権現山城

「武蔵国の権現山城」、それは若い頃に『桐生地方史 附渡良瀬沿岸地方史蹟』（岡部赤峰）という本を読み、その場所が自分の先祖の一人らしい武士が、桐生の殿様の名代で出陣した合戦で戦死したと伝わる場所と知り、どこなのかと興味を抱いた城である。武蔵国といっても今の埼玉県、東京都、神奈川県の一部と広く、長い間権現山城の場所が分からないままだった。しかし、今から20数年前インターネットの発達により、権現山城は横浜市の城であることが、どなたかのHPに掲載されているのを見つけた次第である。権現山城は、神奈川県横浜市神奈川区幸ヶ谷にあったという中世城郭である。

当時40歳を過ぎていた自分は、実際に京浜急行の神奈川駅を降り、そのHPで城跡と示された幸ヶ谷公園の場所まで行ってみると、遺構は残っていない。近く図書館の職員の方に伺う

と、そこは城跡で看板も出ているという。確かに看板はあったが、土塁の断片すらなく、だいぶ土地が改変されているようであった。地形は台地が線路で分断されているものの、城跡と紹介されていた公園は、かつて海が迫っていたらう低地に面した高い場所にある。あたかも権現山合戦の戦死者を弔うように、台地の下には寺院があった。



<北西からみた権現山城跡>

◆権現山城をめぐる攻防戦

権現山城の前身とみられる城は、南北朝期の正平7年(1352)の「新田義宗注進状案写」に新田義宗に鎌倉を攻められた足利尊氏が「武州狩野河」に立て籠もったことが書かれており、その「狩野河」すなわち神奈川で

立て籠もった城と考えられている。

また『武家事紀』所中の「上乘院御同宿中」という宛先のある、永正7年(1510)8月3日の藤原(上杉)憲房書状のなかに、同年7月の権現山城を攻防の舞台とした権現山合戦の様子が書かれている。

「伊勢新九郎入道宗瑞、長尾六郎と相談、相州へ出張せ令め、高麗寺並びに住吉之古要害取り立て蜂起せ令め候。然る間、建芳被官上田蔵人入道与力せ令め、神奈河権現山地の利を取るに於て慮外を致し候間、建芳自身彼の地に向かい罷り立ち候。然る間、当方自りも勢を遣わし、成田下総守、淡江孫太郎、藤田虎寿丸、長尾孫太郎代官として矢野安芸入道、大石源左衛門・同名三人、長尾但馬守代官として成田中務丞、其の外武州南一揆之者共罷り立ち候。去る十一自り彼の権現山を相攻め、同十九夜中没落せ令候。然る間、所々要害自没せ候由、註進到来候間、相州

□は、先此の分に候。」

この「藤原(上杉)憲房書状」の上杉憲房は、山内上杉家13代当主で、関東管領である。伊勢新九郎入道宗瑞は、後北条氏初代の伊勢宗瑞(北条早雲)である。長尾六郎は長尾為景(上杉謙信の父)を指す。文中あるように、伊勢宗瑞が長尾為景とはかつて、高麗寺城、住吉城で反乱を起こし、さらに建芳被官、つまり「建芳」という法名の扇谷上杉朝良の重臣であった上田蔵人が、宗瑞に呼応して権現山城に籠って蜂起したのを山内上杉氏、扇谷上杉氏の軍勢がこれを攻めたということを書いている。大名の書状であるが、権現山合戦前後の状況をかなり細かく書いており、同時代の記録として貴重である。

権現山合戦は、永正7年(1510)7月11日から19日夜まで続いた激戦となったが、山内・扇谷上杉氏連合軍が城を落とし、上田蔵人はどこかへ落ちて行ったとされる。

権現山合戦の舞台となった、権現山城は横浜市神奈川区幸ヶ谷の台地にあつたとされるが、開発や明治以降の鉄道開通などに伴う、大幅な地形改変のため、遺

構が残っていない。

「藤原(上杉)憲房書状」では、権現山城の様子は書かれていない。近世初頭に成立したと考えられる、後北条家の家人だったと自称する作者が書いた『相州兵乱記』には「彼山ハ四方険阻ニテ岸高く。峙(そわ)ヨリ南ハ海。北ハ深田ナリ。西ニハ、小山續キタリシヲ其間ヲ堀切り。山ニ續キタル本覚寺ノ地蔵堂ヲ根城ニトリ立テ略)」と書かれている。

また寛文12年(1672)に江戸で出版された近世軍記である『鎌倉管領九代記』には「彼の山の躰たらく、四方険阻にして切岸たかく、南ハ洋海漫々として、雲の浪、煙の波天につらなりて涯なく、北は深田の底をしらず、馬の足更に立つへからず、西のかたにハ、小山のつづきたる其間を堀切て、本覚寺の地蔵堂をは根城に拵らへ(略)」と城の様子が描かれている。『鎌倉管領九代記』は、『相州兵乱記』と同様のことを修飾を加えて記述しているように見え、『相州兵乱記』の記事をもとに『鎌倉管領九代記』が書かれたものか。

合戦の様子は、『江戸名所

図会』の「北条上杉神奈川闘戦」という図で描かれているが、これは勿論後世の想像図とはいえ、海が戦う将兵のすぐ足元まで迫り、城門の内外に敵味方の将兵がひしめいて、遠く本覚寺側にも陣が張られている様子が活写されている。

『金川砂子』という江戸時代の書物にも「権現山合戦」の図があり、図の右上の城門の奥に台地、左手に海を描き、稚拙ながら、こちらの方が権現山の台地をうまく描いているかもしれない。

群馬県の桐生市年表には、「永正7年(1510)7月 桐生重綱の女婿、五覧田城城主松崎左衛門、名代として武蔵国権現山へ出陣し討死する(『庭軍記』)」との記載がある。文中の「松崎左衛門」は松嶋左衛門の誤記と恐れ、これは戦国期に桐生の桐生氏家臣として、今の群馬県みどり市、桐生市に蟠踞した地侍松嶋氏の一族であろう(岡部赤峰の前掲書による)。

松嶋氏はみどり市にあつた五乱田砦に拠っていたとされ、筆者の先祖にあたる松嶋右京助はその近くの住人で、元龜4年(1573)以降太田金山城主由良成繁に服

属し、所領を安堵されたことが、当時の書状で分かっている。永正頃の松嶋左衛門は松嶋右京助の60年程前の人であるが、松嶋右京助の祖父が従祖父のような関係であったかもしれない。権現山合戦は前出の『相州兵乱記』などの軍記に描かれたが、戦国期の関東の戦乱は広域にわたり、上州の豪族にまつわる逸話としても記録された。戦国期の今の群馬県の桐生周辺の小豪族が、桐生氏という大名の名代として山内上杉氏の陣に加わり、権現山合戦で戦死したという『関東庭軍

記』の記事は、軍記とはいえ、左衛門の命日など記載の具体性から史実をある程度反映したと思われる。

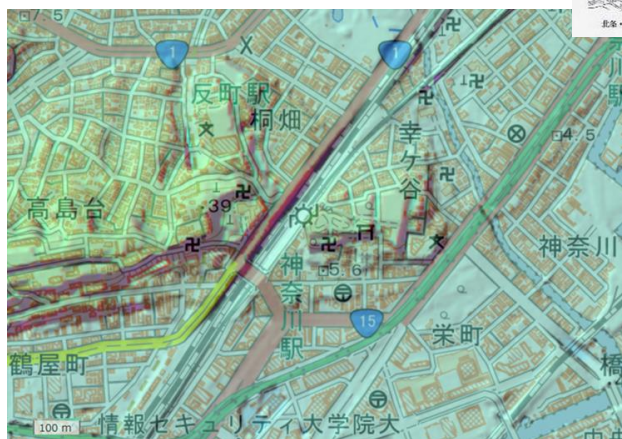
◆権現山城の元の姿の推測

さて、権現山城があったとされる幸ヶ谷の台地は、かつては海に面した低地に突きだしている形だったが、万延元年(1860)に完成した神奈川台場建設のための土取りによって先端部が大きく削られたとされてきた。またその台地は、西側は鉄道や道路で縦断されているものの、かつては更に西側に

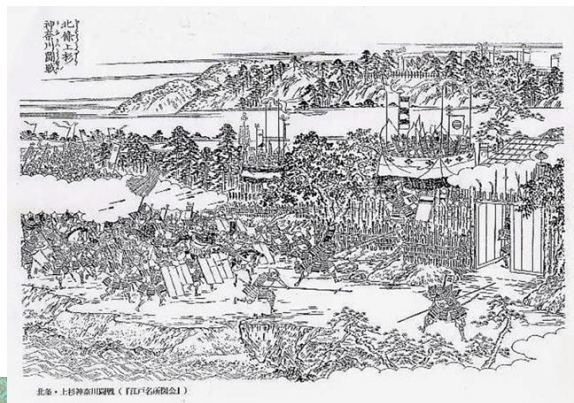
ある本覚寺のある台地と尾根状の地形でつながっていたという。その尾根状の地形は、堀切があって、中間がくぼんでいたために、鉄道を敷設する際に開削しやすかったと思われる。

『相州兵乱記』では「峙ヨリ南八海。北八深田ナリ」と書かれているように、権現山城は南を海に臨み、北は深田、つまり当地を流れる滝の川流域の低湿地があったような場所だということが分かる。

下の地形図の「幸ヶ谷」の文字の下の学校(幸ヶ谷小学校)付近が権現山城の主要部分。



<現代の権現山城跡付近地形図> 国土地理院地形図より



<『江戸名所図会』の「北条上杉神奈川闘戦」図>

手前が海、絵の右側の城門の内側には権現山城の守備兵がおり、左側には寄せ手の軍勢が描かれている。

絵の上部にあるのは本覚寺のある台地に敷かれた陣。

中世城郭研究会の『中世城郭研究 25』所収の目黒公司氏著「権現山城(横浜市)について」では、権現山城があった場所を近世地図との照合により、よく言われてきた幸ヶ谷公園ではなく、その南東の幸ヶ谷小学校付近としている。これは『相州兵乱記』、『鎌倉管領九代記』の記載とも矛盾しない。目黒公司氏によれば、明治初期の「横浜実測図」をもとに、江戸時代の『神奈川砂子』、『江戸名所図会』にも描かれた宗興寺など江戸時代から場所が変わっていない寺社との位置関係などから、権現山城の位置を旧東海道が西から北へカーブする地

点とし、それは幸ヶ谷公園ではなく、幸ヶ谷小学校付近であるとしているのである。

また目黒公司氏は文久2年(1862)の史料で権現山の台地上にあった熊野権現社が台場建設と神奈川宿警護にあたった松平隠岐守の陣屋田込地になっていたり、異国船監視のための遠見番所が当時から存在していたことから、台場建設によって、権現山の台地が大きく削られた訳ではなく、現在みるように台地先端部が削られたのは1908年から1922年の間の開発によってであると明らかにした。

幸ヶ谷公園辺りは、権現山の中心ではなく、西側の本

覚寺のある台地につながる尾根状地形の一部であった。そして、現在の幸ヶ谷小学校付近の標高は約10m(台地先端より西北西に約70m同じような高さの場所が続く)、台地先端より西北西に約300mいった幸ヶ谷公園辺りは標高21m以上あるので、権現山の台地先端部は11m以上削られたと思われる。それでは城跡の遺構が壊滅したのも無理はない。

下の図は、「御開港横浜之全図」に描かれた権現山の台地で、北から見たものであるが、岬状に海の方に突き出ている。そして、権現山の台地とともに、神奈川台場も描かれている。



<「御開港横浜之全図」(万延元年(1860)頃)の一部>

* 国立国会図書館デジタルコレクションより

その神奈川台場は図の下に描かれており、その建設のために権現山の台地から削った土は多少使われたかもしれないが、この絵が描かれた時点では権現山の台地はほぼ旧情をとどめていたのだろう。「御開港横浜之全図」では、台地先端部は急崖となり、斜面林がなく地肌が露出しているように見えるが、台地上には前記の遠見番所も、描かれている。

権現山の台地下には東海道沿いに人家が建ち並んでいるが、「亀甲煎餅」の文字があるが、それは神奈川宿の名物とされてきた。

『鎌倉江ノ島大山新板往来双六』（柳亭種彦撰 前北斎為一画 天保2年（1831））に「神奈川 程が谷 へ一里九丁 駅中の橋を滝のはしといふ 近年亀の子せんべいといふもの名だかし」とあるので、天保2年には「亀甲煎餅」の文字の場所には店があったと思われる。他に、宗興寺など寺社も江戸中期頃から位置は変わっていないとみられる。

図の「瀧之橋」「青木町」の表示のある場所を通る道は、東海道であるが、その道

筋に近い所まで、かつては台地が張り出していて、その先端に当たる部分に権現山城があったのかもしれない。

さらに、横浜市歴史博物館にある江戸時代の権現山や神奈川宿のジオラマでは、権現山の台地の下を旧東海道が通り、沿道に神奈川宿の街並みがある様子が表現されている。写真の右下台地先端部に権現山城があったと考えられる。



< 権現山、神奈川宿のジオラマ > (横浜市歴史博物館)

◆遺構のない城の復元

遺構が残っていない城跡の状況を復元するのは、なかなか容易ではない。

何しろ、今現在遺構が残っていないのだから、過去遺構があった時の遺構の図面、絵図、文章での記録などを探るか、残存地形その他から推測するしかない。

権現山城については、上杉氏の一次史料があり、それを補完するように江戸時代初め迄の近世軍記があって、神奈川宿という繁栄した場所に位置していたために、絵図も残っていた。それで当時の姿をある程度想像することができるが、このような例は希少であろう。

(参考文献)

「権現山城（横浜市）について」 目黒公司 『中世城郭研究 25』 中世城郭研究会（2011）

『神奈川中世城郭図鑑』 西股総生、松岡進、田嶋貴久美 戎光祥出版（2015）ほか

柏市民活動フェスタ ぽかぽか市 2021 に 当会参加

11月23日（祝・火）に開催される柏市民活動フェスタと同時開催のフリーマーケットの方に、当会は参加します。柏駅前通りハウディモール会場の柏駅に近い場所に出店します。時間帯は、10時から15時になります。おいでの際は、マスク着用など感染対策をお願いします。

よろしくをお願いします。当会出店場所では、過去の松ヶ崎城祭りの動画などもご紹介しようと思います。



● 当会役員小柳満雄氏逝去

さる8月お盆のお中日を過ぎた頃、当会の元副会長で、今年まで監査をつとめられてこられた小柳満雄氏が逝去されました。長全寺会館にて、8月21日にお通夜、22日に告別式が行われ、大勢の方に見送られました。

昨年末頃から一時慈恵医大柏病院に入院されて、その後退院し、痩せてはおられましたが、お元気そうな様子でした。それが、このようなことになり、誠に残念でさびしく思います。

小柳満雄氏は、1999年の当会創立時からの会員であり、会創立、その後の会の運営にも尽力されてこられました。

また、柏駅前の商店会の

役員を長年つとめられ、駅前の振興や柏の地域活性化などに大いに貢献されました。それでいて、いつも穏やかで、気取らない御人柄は、皆様ご存知と思います。

1999年にはスタジオWUUを創設し、こけら落としにジャズピアニストの山下洋輔さんを招いて演奏会をするなど、柏の文化向上の活動を牽引してこられました。

一度当会の用事で小柳さんの事務所を訪れたところ、歌手の高樹滯さんが出て来て驚いたことがあります。

そうした有名人だけでなく、余り知られていないパフォーマーやアーティストも大切にされてこられました。

長全寺会館での告別式の弔辞では、柏駅前通り商店街振興組合が制作した写真集の『特異日』が紹介されましたが、『特異日』には柏駅前通りを歩行者天国として「何か」がおこる街にしたいとの思いが込められていました。その写真集の写真の多くを撮影したのが、他ならぬ小柳さんだったのです。

ご冥福をお祈りいたします。
(森 伸之記)



お知らせ

< 松ヶ崎城祭りは本年も中止 >

新型コロナ感染拡大も最近では新規感染者が以前より少なくなり、緊急事態宣言も解除されましたが、第6波の懸念もあります。その中で名簿等で追跡のできない会独自の行事を開催するのはリスクがあると考え、また準備も難しいため、本年も例年11月に行っていた松ヶ崎城祭りを中止します。来年以降、新型コロナがおさまった時点で、開催しようと思います。

< 『水辺の城』第5号発刊について >

『水辺の城』第5号を2021年7月に発刊しました。なお、第4号、第5号とも、新型コロナ感染拡大の影響で城郭研究者セミナーなどイベントが中止となっており、頒布する機会が減り、残部がまだかなりあります。

< 原稿募集 >

紀行文や写真、イラストでも、地域の歴史、自然に関わることであれば、何でも結構です。Eメールの場合は info@matsugasaki-jo.net まで。紙の原稿を役員に託されても結構です。

手賀沼が海だったころ

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報 第45号 2021.10.18

編集・発行人：森 伸之

年会費2千円 振込先：千葉銀行 柏支店 普通 口座番号3461475